

令和 5 年度事業報告

付属資料

令和 5 年度	貸借対照表
同 上	正味財産増減計算書
同 上	財産目録
同 上	財務諸表に対する注記
同 上	監査報告書

令和 6 年 6 月

公益財団法人利用運送振興会

令和5年度事業報告

はじめに

公益財団法人認定12年目を迎え、当該年度も財団設立趣旨に準拠した堅実な運営を実践し、物流博物館事業を推進してまいりました。

事業面では、令和5年度も新型コロナウイルス感染症蔓延防止の観点から、安全確保に留意しつつ博物館の運営に取り組んでまいりました。その結果、同感染症が5類に移行したことによる社会的な対応の変化の影響もあり、入館者数はコロナ禍以前に回復し、今日に至っております。

1. 令和5年度の事業経過の概況について

A. 重点推進項目の実施状況

令和5年度事業計画にもとづき、次の5項目を重点推進項目として取り組んでまいりました。

- (1) 鉄道貨物輸送150周年記念特別展「汐留駅にみる貨物鉄道と通運のあゆみ」の開催、常設展示の改良・催事・共催事業の実施
- (2) 一般入館者および団体見学増に向けた広報活動の強化
- (3) 収蔵資料の整理・データ化の推進
- (4) 常設展示リニューアルの計画立案・実施
- (5) 運営資金の確保

(1) 特別展の開催、常設展示の改良・催事の実施

特別展は、「貨物鉄道・通運事業150周年」を記念して、「汐留駅にみる貨物鉄道と通運のあゆみ」展を開催しました。これらに加え、令和4年度に引き続き、前の年度に開催した特別展「日本通運からNXへ一運ぶのりものでたどる150年のあゆみ」を流通経済大学に共催事業として巡回し、同大学との連携事業を実施しました。

催事については、令和4年度と同様、夏休み行事（段ボール工作コーナー）、クリスマス映画会（12月）、オンライン開催を併用した古文書講座初級編及び古文書講座中級編（いずれも1月～3月）、日本通運(株)が過去に製作し、デジタル化を完了した映画の上映会を引き続き毎月開催しました。また、感染症蔓延防止のため開催を見送っていた「ペーパークラフト教室（日本内航海運組合総連合会との共催）」を再開し、さらに令和5年度より新たに鉄道模型運転会（8月）及びJR貨物音楽部ミニコンサート（9月）を開催しました。

(2) 一般入館者および団体見学増に向けた広報活動の強化

X（旧Twitter）及びInstagramにより開館情報や常設展示の紹介、イベント情報、物流に関するミニ情報などの告知を行いました。TV、ラジオ、全国紙都内版、業界紙誌、鉄道趣味誌、タウン紙、催事案内のWEBサイトなどに当館の展示や催事の案内が取り上げられ、各方面で当館が紹介されました。また、引き続き一般来館者向けにポイントカード制度を実

施しています。

(3) 収蔵資料の整理・データ化の推進

昨年度に引き続き、収集後、未整理となっている収蔵資料について資料整理に取り組み、令和5年度はデータ化の事前調査として、写真フィルムの所蔵状況のチェックを行いました。

(4) 常設展示リニューアルの計画立案・実施

常設展示については、現代物流に関する展示データ、展示資料を更新するなど定期的な展示替えを行いました。

(5) 運営資金の確保

事業実施に際しては効率的な運営を心掛け、費用節約に努めるとともに、特定資産の安全かつ効率的な運用に努めてまいりました。

B. 物流博物館の具体的な事業実施状況について

(1) 利用者数

a. 入館者数

令和5年度は、開館日数は264日となりました(対前年度11日増、4.3%増)。入館者数合計は10,548人で、前年度実績(8,263人)を27.7%上回り、予算(10,000人)を5.5%上回りました。開館日1日平均の入館者数は、前年度32.7人に対し、令和5年度は40.0人でした。また、令和5年度末時点の開館以来の累計入館者は206,237人となりました。

b. 団体見学者数

団体見学者数は、幼児2団体31名、小学校2団体23名、中学校18団体134名、高等学校6団体162名、大学4団体56名、専門学校3団体52名、一般団体19団体261名、企業団体58団体574名、地域団体3団体39名で、団体数合計115団体、団体見学者数は1,332名でした。

(2) 令和5年度に実施した企画事業等

a. 普及事業

① なつやすみダンボール工作コーナー

実施日・参加者数：8月12日(土)・63名／8月13日(日)・41名

対象：幼児～小学校6年生(小学校3年生までは保護者同伴)

概要：梱包資材であるダンボールを素材とした機関車・トラック・貨物船のキットを組み立て、色を塗るなど飾りつけを行い、自分だけの運ぶ乗り物を製作。

参加費：材料費100円(入館料別途)

② マンスリー上映会

概要：当館では、昭和20年代～50年代の物流に関する映画フィルムを収蔵しており、ほとんどの作品がデジタル化されている。平成29(2017)年度以降、これらの中から映像作品を選び、上映会を毎月1回開催している。感染症拡大防止の為、定員を従来の半数として実施。

参加費：無料(入館料別途)

参加者数：のべ 52 名

実施日・上映作品

- 4月23日(日)：「アフリカ 10,000 キロ」
「灼熱の大地で一日通 IJPC の記録―」
- 5月28日(日)：「国宝の旅立ち」
「夢と心を未来に運べ！～受け継がれる日通美術の技～」
- 6月25日(日)：「黄色い車―運転手心得より―」「BIG・DRIVER」
「日本通運株式会社東京中央ターミナル」
- 7月30日(日)：「アイソマックス・リアクター輸送の記録」
「自走する超大型ドーリ」
「南十字星のもとで―538 トンバキュームタワー建設の記録―」
- 8月27日(日)：「アラビアの水―超大型トランスポーターの誕生―」
「モジュール輸送・据付システム」
「世界にひろがる 日本通運の海外ネットワーク」
- 9月24日(日)：「白いレール」「エレクション架設工法」
「花ひらく日本万国博 EXPO'70」
- 2月25日(日)：「こうして米は運ばれる」「海と陸をむすぶ」
「世界をむすぶ―国際―貫輸送―」
- 3月31日(日)：「ビルと引越し」「新聞はとめられない」
「ニューヨーク転勤命令―日通の海外引越―」

※10月は特別展開催準備のため開催せず。11月～1月は特別展開連事業として映画会を開催。

③古文書講座「古文書に親しむ ～はじめて学ぶ方へ～」

開催日：令和6年2月24日・3月9日・23日の土曜日（全3回）

開催方法：博物館会場・オンライン・録画配信

概要：外部から講師を招き、典型的なくずし字の読み方や江戸時代の古文書のパターンに触れて、楽しみながら古文書に親しむ講座。令和5年度は館蔵の宿駅関係史料の読解を通じ、古文書を読み解く楽しさを紹介。

講師：学習院大学史料館研究員 田中潤先生

参加費：1,500円

参加登録者数：36名

④古文書講座：「近世在郷町名主の日記を読む―地方豪商が書き留めた維新期の社会世相―」

開催日：令和6年3月2日・16日・30日の土曜日（全3回）

開催方法：博物館会場・オンライン・録画配信

概要：外部から講師を招き、古文書を解読しながら交通・物流などに関連する歴史の諸相を解説する講座。令和5年度は桐生市立図書館蔵の上野国山田郡桐生新町（群馬県桐生市）の町役人の役用日記を取り上げ、「御軍役人馬」の徴発など維新期の新政府の動向が地域に及ぼした影響に関わる部分を読解。

講師：歴史研究家 巻島隆先生

参加費：1,500円

参加登録者数：45名

⑤クリスマス・サンタクロース映画会

実施日：12月16日(土)午前・午後

参加者数：36名(午前22名・午後14名)

対象：幼児～小学生(小学校3年生までは保護者同伴)

概要：プレゼントを「運ぶ」サンタクロースをテーマにした映画を2本上映し、サンタクロースが登場して子どもたちにプレゼントを贈呈。参加者の定員を従来の6割に制限して実施。

参加費：無料(入館料別途)

⑥博物館学芸員実務実習の受入

実施日：8月2日(水)～6日(日)・9日(水)～12日(土)の計9日間

人数：東京都立大学、日本女子大学、八洲学園大学、立教大学各1名

概要：大学で博物館学芸員資格取得を目指す学生の実務実習の受入。

⑦高輪伝馬の会

概要：高輪伝馬の会は、古文書講座(平成13年度～実施)の参加者のうち、講座終了後も継続して古文書読解を行うことを希望したメンバーにより、平成15年(2003)11月に発足した自主的な勉強会。当館の所在地高輪にちなみ名称を「高輪伝馬の会」とした。令和5年度はオンラインと録画配信、会場参加を併用して活動を継続。原則毎月第1・3土曜日に開催。令和6年3月現在の会員数は21名。

参加者数：のべ168名(録画配信利用者を除く)

b. 特別展示

①鉄道貨物輸送150周年記念特別展「汐留駅にみる貨物鉄道と通運のあゆみ」開催

会期：10月28日(土)～令和6年1月21日(日)

概要：明治6年(1873)9月15日に新橋・横浜間で貨車を用いた鉄道貨物輸送が開始され令和5年(2023)で150周年を迎えたことを記念して開催。貨物鉄道の歴史は、その開業と同時に始まった鉄道貨物取扱業、いわゆる「通運事業」の歴史でもあった。また、日本の鉄道開業の地である新橋駅は、大正3年(1914)に貨物専用の汐留駅となって以後、昭和61年(1986)まで営業を続け、東京における鉄道貨物輸送の一大拠点として、戦前・戦中・戦後を通し日本の物流に大きな役割を果たした。本展では、貨物鉄道・通運事業150周年の節目の年にあたり、長く日本の物流に貢献した旧新橋駅時代を含む汐留駅の歴史について、写真や映像、模型、各種資料を通し、貨物鉄道と通運事業双方の観点から振り返った。また、あわせて過去から現在に至る東京の貨物取扱駅10駅を取り上げ紹介。

後 援：協同組合 全国地区通運協会・全国通運業連合会・公益社団法人
全国通運連盟・日本貨物鉄道株式会社

会期中総入館者数：3,450名

刊行物：展示図録『汐留駅にみる貨物鉄道と通運のあゆみ』（販売価格
500円）

関連事業

1) 講演会 講演会場での聴講のほか、オンラインによる配信を実施。

a) 第1回講演会

実施日：11月23日(木・祝)

・「貨車車票でたどる貨物鉄道輸送の歴史」

講師：浦田慎氏（一般社団法人 能登里海教育研究所 主幹研
究員）

・「貨物輸送の近代史と通運事業の役割」

講師：河村徳士氏（城西大学経済学部准教授）

参加者数：36名（会場17名、オンライン19名）

b) 第2回講演会

実施日：12月10日(日)

共催：東京産業遺産学会

・「貨物取扱駅の150年—東京と大阪を中心に—」

講師：森田耕平氏（立命館大学文学部特任助教）

・「ドイツの貨物鉄道輸送と操車場について」

講師：久保健氏（公益財団法人日独協会会員、東京産業遺産
学会理事）

参加者数：44名（会場23名・オンライン21名）

2) 映画上映会

a) テーマ：「昭和20年代の鉄道貨物輸送」

上映作品：「物のながれ」「社会科教材映画体系 貨物列車」「ご
ちそう列車」

実施日：11月18日(土)・26日(日)いずれも午前・午後

b) テーマ：「鉄道貨物輸送の移り変わり」

上映作品：「黄色い車」「欧米の貨物輸送作業」「汐留駅・貨物駅
特集」（編集映像）

実施日：12月3日(日)・23日(土)いずれも午前・午後

c) テーマ：「高度経済成長期の鉄道現場と荷役改善～『荷役はかわ
る』シリーズ一挙上映」

上映作品：「荷役はかわる—通運のパレット作業—」「荷役はかわ
る 第2集」「荷役はかわる 第3集 ユニット・ロー
ドシステム」「荷役は変わる 第四集 システム化への道」

実施日：令和6年1月14日(日)午前・午後

会期中の映画会参加者総数：107名

c. SNS

開館情報や常設展示の紹介、イベント情報、物流に関するミニ情報などを告知。

① X (旧 Twitter・ツイッター) @butsuhaku

令和2年6月より開始。令和6年3月現在、フォロワー数は3,103。

② Instagram (インスタグラム) @cargo_kun

令和3年9月より開始。令和6年3月現在、フォロワー数は132。

d. 外部協力

① 共催・協力事業

1) 巡回展示

物流科学研究所開設 50 周年特別企画展示「運ぶのりものでたどる 150 年のあゆみ」

共催団体：流通経済大学 物流科学研究所

後援：NIPPON EXPRESS ホールディングス(株)

会期：11月8日(水)～11月30日(木)

会場：流通経済大学新松戸キャンパス1号館1階講堂横ホワイエ

概要：令和4年度特別展「日本通運から NIPPON EXPRESS へ 運ぶのりものでたどる 150 年のあゆみ」にて展示したパネルの内、主なものを選定し巡回展示を開催。

2) 協力展示 貨物鉄道輸送 150 周年記念パネル展

協力：日本貨物鉄道(株)

会期：10月28日(土)～令和6年1月21日(日)

会場：物流博物館「現代の物流」展示室内

概要：貨物鉄道輸送 150 周年を記念したパネルの展示。

3) その他催事

a) 内航船ペーパークラフトを作ろう！

共催団体：日本内航海運組合総連合会

実施日：8月16日(水)午前・午後

対象：小学校6年生までとその保護者

参加者数：34名(午前17名・午後17名)

会場：物流博物館

概要：くらしと産業に欠かせない貨物を多く運んでいる内航船についての解説を聞き、貨物船のペーパークラフトを製作。

講師：オトウカトウ氏(工作ユニット)

参加費：無料(入館料別途)

b) 夏休み鉄道模型運転会

共催団体：NX社員有志運転会実行委員会

協力：IORI工房 大作ワークス

実施日・参加者数：8月20日(日)・269名

会場：物流博物館

概要：鉄道貨物輸送 150 周年記念イベントとして開催。特設レイアウトで日本や海外の多様な貨物列車や人気の列車を走らせ、各列車の解説を行うとともに、小学生以上の運転体験、参加者の車両持ち込みによる試運転（HOGージのみ）にも対応した。

参加費：無料（入館料別途）

c) 親子で楽しむ JR 貨物音楽部ミニコンサート

共催団体：JR 貨物音楽部

実施日・参加者数：9 月 17 日(日)・26 名

会場：物流博物館

概要：鉄道貨物輸送 150 周年記念イベントとして開催。JR 貨物音楽部によるミニコンサート。走行する貨物列車の映像をバックに JR 貨物社歌をはじめ鉄道にまつわる楽曲を演奏。JR 貨物のお仕事紹介のほか、演奏会終了後には運転士の制服着用体験を実施。

参加費：無料（入館料別途）

②学芸員の出講

1) 第 251 回物流塾にて講演

主催：物流塾

実施日：4 月 8 日(土)

会場：物流博物館

概要：「鉄道貨物輸送・通運事業 150 年とトラック輸送 120 年の歴史について」と題し講演。

担当：玉井幹司

2) 全国通運連盟寄附講座へ出講

主催：公益社団法人 全国通運連盟

実施日：9 月 27 日(水)・10 月 4 日(水)

会場：流通経済大学 新松戸キャンパス

概要：全国通運連盟寄附講座全 14 回のうちの第 1 回、第 2 回を担当。「物流と通運の歴史」と題して江戸時代の交通・運輸制度から明治以降の鉄道貨物取扱業の歴史、近年の概況までを講義。

担当：玉井幹司

3) 日本パレット協会「パレットの日 2023 記念講演会」へ出講

主催：一般社団法人日本パレット協会

会場：オンライン開催

開催日：11 月 9 日(木)

概要：「物流の発展とパレットが果たしてきた役割と課題」と題し講演。

担当：玉井幹司

4) 市民歴史講座「寺子屋吉岡」へ出講

主催：木下まち育て塾

共 催：印西市教育委員会

実施日：5月21日(日)・11月19日(日)

会 場：印西市立中央公民館

概 要：「明治初期における千葉県の内陸輸送ネットワークの展開」と題し講演。

担 当：玉井幹司

5) 港区立高輪図書館分室工作会「内航船のペーパークラフトをつくらう！」へ出講

主 催：港区立高輪図書館分室

実施日：11月25日(土)

会 場：港区立高輪子ども中高生プラザ4階多目的ホール

概 要：小学生向けイベントに出講。勝海舟生誕200年にちなみオリジナルの関連スライド・映像を上映し、ペーパークラフトで内航船を製作。

担 当：三田芳美・小緑一平・玉井幹司

③博物館関係諸団体との連携と共同の取り組み

1) 「産業文化博物館コンソーシアム」(通称：COMIC)

概 要：平成20年春、企業ミュージアムの運営者が集い同コンソーシアムが発足して以来、連携緊密化と情報交換のため、定例開催のシンポジウム・事例研究会に参加している。今年度も定例の会合(オンラインと会場参加により計6回開催)に5回参加した。

2) 「みなとの博物館ネットワークフォーラム」

概 要：港に関する文物を研究・所蔵・展示する博物館及び港湾関係者で構成され、相互情報交換や連携事業を実施。連携緊密化と情報交換のため、イベントの告知などをフォーラムのWEBサイト内「ミュージアムの最新情報」に掲載。

3) 「港区ミュージアムネットワーク」への協力

概 要：東京都港区の主導により、同区内に所在する博物館・美術館等の相互情報交換や連携事業を実施。平成20年春に同ネットワークが発足以来、博物館の広報と連携のため物流博物館として各種事業(スタンプラリー・年2回発行の情報誌への館情報の掲載など)に極力参加。

4) 「小規模ミュージアムネットワーク(ちいさいとこネット)」への参加

概 要：小規模博物館施設をはじめ、博物館に専門的関心をもつ個人の交流組織。例年、博物館視察などの例会、「サミット」(大会)が行われている。今年度は主にメーリングリストによる情報交換等を行った。

e. マスコミ掲載（主なもの）

①掲載・放送

1) 新聞・雑誌・書籍

- ・『毎日新聞』令和6年3月1日「アートを歩く」欄に「モノが手元に届くまで 物流博物館」と題し常設展示が紹介。
- ・『MONTHLYかもつ』令和5年9月号の貨物鉄道150年特集に資料提供、同令和6年2月号・3月号に、2回にわたり貨物鉄道150周年記念として玉井のインタビューが掲載。
- ・増山かおり『東京のちいさな美術館・博物館・文学館』（増補改訂版）に博物館が紹介。
- ・『News がわかる特別編 物流がわかる』（毎日ムック・令和6年2月28日発刊）に博物館が紹介。

2) TV 放映

- ・「ぐるり東京江戸散歩」5月27日11:30~12:00（TOKYO MX）で館紹介（玉井出演）。
- ・「Let's トレ活!」9月12日・9月26日24:00~24:25/再放送令和6年3月17日（日）24:30~24:55「#18 貨物特集 Vol.1」（BSフジ）で館紹介、収録会場提供（玉井出演）。

3) ラジオ出演

- ・「En[∞]Voyage（エンボヤージュ）」5月17日9:00~11:30（tbc東北放送）で館紹介（玉井出演）。

②執筆・監修・資料提供

- 1) 『運輸新聞』8月4日（金）「特別寄稿 通運事業150年の歩みを振り返る」（玉井執筆）、「写真でみる通運150年」に資料提供。
- 2) 「山形国際ドキュメンタリー映画祭」（10月5日（木）~12日（木））の日本プログラム「野田真吉特集」に、野田真吉監督作品「海と陸をむすぶ」「オリンピックを運ぶ」の上映用映像データと英文字幕データを提供。
- 3) 東京ビッグサイトで開催の「国際物流総合展 2023 第3回 INNOVATION EXPO」（9月13日（水）~9月15日（金））にて上映の主催者企画動画「物流の歴史から見えてくるもの」製作に際しシナリオ原案提供・監修・資料提供・製作協力。
- 4) 日本貨物鉄道（株）「貨物鉄道輸送150周年記念動画」製作協力・資料提供
- 5) 日本貨物鉄道（株）貨物鉄道輸送150周年記念パネル（歴史年表部分）制作協力。
- 6) NIPPON EXPRESS ホールディングス（株）CC部映像作品「Logistics for the Future!」台本・映像チェック。
- 7) ウェブサイト「鉄道コム」の「鉄道コラム」に当館特別展紹介のコラム掲載（11月22日公開、玉井執筆）
- 8) 「みなとの博物館ネットワークフォーラムWEBサイト」内「学芸員のつぶやき」（令和6年2月15日公開、三田執筆）。

- 9) 『月刊ジュニアアエラ』令和6年3月号「特集 物流危機を乗り越えろ」の「日本の物流の歴史」に資料・素材提供及び内容監修。
- 10) 『貨物時刻表』(令和6年3月)巻頭特集「貨物鉄道の歴史」に資料提供・監修、玉井インタビューおよび博物館紹介が掲載。
- 11) 閲覧、画像・映像使用等の特別利用による資料提供49件

(3) その他

a. 新型コロナウイルス感染症拡大防止のための対応

① 展示室内体験コーナーの休止

物流会社の制服着用体験、飛脚に変身、段ボール工作、カーゴ君ぬりえ、物流タウンシート、はこぶ絵本閲覧、ジャンボ物流パズルは前年度から引き続き休止した。但し、制服着用体験・物流タウンシート・貨物列車のおもちゃについては、見学予約の学校関係団体に限り希望に応じ提供した。ふろしき包み体験、運びくらはは再開。

② 一部の普及事業の開催を見送り

学生向け体験講座「美術品の梱包・入門(陶器)編」

③ 団体見学・施設利用の人数制限

同感染症5類感染症移行を受け、人数制限については従来の最大15名の制限を団体の特性に応じ緩和した。その他、引き続き来館者には体調不良時の来館自粛をお願いし、館内の消毒液の設置、三密回避のための床ライン表示、券売機・タッチペン・マウス等共用部分の定期的な消毒を継続して行っている。

C. 寄附金の収受実績について

(1) 寄附金

NIPPON EXPRESS ホールディングス(株)殿より運営資金として30,000千円のご寄附を賜りました。

D. 令和5年度収支の状況

(1) 収支状況

経常収益計は39,623千円で、予算(37,528千円)に対して2,095千円増(5.6%増)、前年度実績(37,564千円)に対して2,058千円増(5.5%増)となりました。対前年実績増の要因は、特定資産運用益、事業収入の増によるものです。

経常費用計は47,666千円で、予算(51,342千円)に対して3,675千円減(7.2%減)、前年度実績(49,903千円)に対して2,236千円減(4.5%減)となりました。対前年度実績減の主な要因は、人件費、光熱水料費の減です。

(2) 運用手元資金

令和6年3月31日の手元資金は、732百万円で内訳は次のとおりです。

	(百万未満は切り捨て)		
	令和6年3月末	令和5年3月末	令和4年3月末
国債	304百万円	354百万円	350百万円
政府保証債	100百万円	100百万円	100百万円
社債	202百万円	202百万円	202百万円
株式	47百万円	0百万円	0百万円
定期預金	41百万円	41百万円	41百万円
普通預金	37百万円	32百万円	30百万円
合計	732百万円	730百万円	724百万円

(3) 正味財産

令和6年3月31日現在の正味財産は以下のとおりです。

令和6年3月末	令和5年3月末	令和4年3月末
2,249,286,106円	2,260,738,926円	2,273,077,383円

※正味財産減の主な要因は平成18年度からの固定資産減価償却
(当期償却額 14,449,465円) によるものです。

以 上